

基軸

アベノミクス
恐るべき正体 ⑥

同志社大学大学院教授・浜矩子氏に聞く



標でしょうか？

「多様性と包摂性の両立」、「正義と平和の抱き合い」、「狼と子羊がともに宿る」。この三つが

が包摂性も多様性もない世界です。排除と均一化の論理がのしかかってくる。全体主義の世界です。

日本国憲法の中に上記の三つの出会いがあります。個人の尊重（13条）、法の下の平等（14条）、前文と平和主義

は日本国憲法です。グローバル競争の下、弱肉強

実現している。それが日本国憲法の世界だと思

様々な正義（＝価値観）を主張しながらも、平和

（9条）などの理念の中に、これらの三つの出会

食や淘汰の論理がはびこる今こそ、人間不在の

は旧約聖書の言葉です。一つ目は、相互に異なる人々が受容力を持って

外交の手段としない世界です。

ところが、グローバル時代に人間が豊かに共存していくためのこの叡智を安倍政権は『自民党改憲案』で180度変えよう

と成るでしょう。

性なき多様性の世界の中

羊」は強者と弱者の象徴として受け止めることが出来るでしょう。大企業と霧細企業がともに支え

合図。このような共生の構図が実現すれば、グローバル時代もいい時代になるでしょう。

三つの道標

では、相異なる人々がお互いに抱き合うのではな

合図。このように共生の構図が実現すれば、グローバル時代もいい時代になるでしょう。

共存の叡智

くていがみ合う。多様性なき包摂性の世界は、均一化と画一性の世界です。誰もが横並びの論理に

誰かが横並びの論理に従わされる。最悪なの

（おわり）

それはどのような道

誰かが横並びの論理に従わされる。最悪なの

（おわり）

（おわり）

アベ政治に対置する憲法

——アベノミクスに対置する経済社会をどのようにイメージされますか。安倍政権が目指しているのは「強い国家」です。その中身は、一握りのグローバル大企業が稼ぐ「強い経済」であり、軍事力に頼った「強い外交」であり、民主主義や立憲主義を踏みにじる

「強権的な政治」です。こうした「アベ政治」は「壊れたホットプレート」や貧富の格差拡大を悪化させました。では、私たちの対案はどこにあるのか。この「アベ政治」に対置するための、頼りがいのある道先案内人をすでに私たちは持っています。それ

それはどのような道

誰かが横並びの論理に従わされる。最悪なの

（おわり）

（おわり）